

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月6日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材工業株式会社

コード番号 4216 URL <http://www.asahi-yukizai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐次 洋一

問合せ先責任者 (役職名) 総務部長

(氏名) 岡本 忠久

TEL 03-3256-2451

四半期報告書提出予定日 平成21年8月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満四捨五入)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	5,333	△41.5	△682	—	△470	—	△349	—
21年3月期第1四半期	9,121	—	237	—	523	—	326	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△3.57	—
21年3月期第1四半期	3.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	52,612	40,437	76.8	413.48
21年3月期	54,446	40,506	74.3	414.13

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 40,402百万円 21年3月期 40,467百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	1.00	6.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	3.00	—	3.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(％表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	13,000	△32.0	△1,100	—	△800	—	△600	—	△6.14
通期	32,000	△9.5	△100	—	200	—	△100	—	△1.02

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	99,002,000株	21年3月期	99,002,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	1,289,477株	21年3月期	1,286,411株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	97,713,451株	21年3月期第1四半期	97,735,957株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において合理的であると判断するデータに基づいて作成しておりますが、様々な不確定要素が内在しているため、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間の世界経済は、昨年度後半に発した金融危機の影響による景気悪化が継続し、欧米を中心に厳しい状況が続いております。日本経済も、一部には在庫調整が進展し輸出にも復調の兆しが現れるなど景気の下げ止まり感が見られるものの、企業収益や雇用情勢の悪化、設備投資の抑制、個人消費の低迷など、依然として厳しい状況が続いております。

このような事業環境下で、当社グループは、在庫調整を進め、経費削減等のコスト低減に取り組み、中国においては樹脂事業部門の生産体制整備が完了し、また、管材システム事業部門も工場を上海に立ち上げ、拡販体制を整えました。また、樹脂事業部門の新規商品ノンフロン型現場発泡断熱材「ゼロフロンER」の上市に向けて販売体制の強化を図りました。しかしながら、当初の想定をはるかに越えた需要の大幅な落ち込みのため、減収減益となりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,333百万円(前年同期比41.5%減)、営業損失は682百万円(前年同期の営業利益は237百万円)、経常損失は470百万円(前年同期の経常利益は523百万円)、四半期純損失は349百万円(前年同期の四半期純利益は326百万円)となりました。

事業部門別の状況は、次のとおりであります。

①管材システム事業部門

IT及び自動車関連をはじめとするあらゆる産業で新規設備投資が減少し、更にはこれらの産業が大幅な減産を行った事により修繕投資も激減したため、主力製品であるバルブ、パイプ、継手の売上高及びエンジニアリング事業における請負工事売上高ともに大幅に減少しました。利益面におきましては、原材料価格の下落、経費削減等のコスト低減を行いました。売上高減少の影響を回避するまでには至りませんでした。

これらの結果、当事業部門の売上高は3,627百万円(前年同期比37.8%減)、営業損失は547百万円(前年同期の営業利益は182百万円)となりました。

②樹脂事業部門

主力製品である鋳物用樹脂及びRCSが、前年第4四半期を底に回復基調にあるものの主要仕向け先である自動車関連産業の国内生産が前年同期に比べて大きく減少したことにより、売上高は前年を大幅に下回りました。利益面におきましては、経費削減等のコスト低減に努めましたが、売上高の減少が大きく影響しました。

これらの結果、当事業部門の売上高は1,706百万円(前年同期比48.1%減)、営業損失は135百万円(前年同期の営業利益は55百万円)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の資産は52,612百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,834百万円減少しました。これは受取手形及び売掛金などの流動資産が減少したことによるものであります。

負債は12,174百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,766百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金の減少及び短期及び長期借入金金の減少によるものです。

純資産は40,437百万円となり、前連結会計年度末に比べ68百万円減少しました。これはその他有価証券評価差額金の増加などによる評価換算差額等の増加がありましたが、四半期純損失による株主資本の減少が上回ったことによるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、当第1四半期の進捗状況等を勘案し、平成21年5月14日に公表しました第2四半期および通期の業績予想を修正致しました。ただし、通期の業績予想につきましては、現時点において下期以降の経済情勢が不透明であるため、第2四半期連結累計期間の業績予想のみを反映したものを修正予想とし、第2四半期決算時に見直しを行う予定です。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正のお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 棚卸資産の評価方法

棚卸資産の簿価切下げに関して、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価格を見積り、簿価切下げを行なう方法によっております。

3 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。ただし、経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められる場合は、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

4 未実現損益の消去

四半期連結会計期間末在庫高に占める当該棚卸資産の金額及び当該取引に係る損益率を合理的に見積って計算しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

(表示方法の変更)

四半期連結損益計算書関係

前第1四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めていた「為替差益」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第1四半期連結累計期間より区分掲記することとしております。なお、前第1四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「為替差益」は51百万円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,672	3,332
受取手形及び売掛金	9,643	12,100
有価証券	—	8
たな卸資産	7,790	6,716
その他	1,623	1,439
貸倒引当金	△62	△65
流動資産合計	21,666	23,531
固定資産		
有形固定資産	15,085	15,091
無形固定資産	479	530
投資その他の資産		
投資有価証券	10,752	10,484
その他	4,717	4,895
貸倒引当金	△88	△84
投資その他の資産合計	15,381	15,295
固定資産合計	30,946	30,915
資産合計	52,612	54,446
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,554	5,746
短期借入金	1,800	2,723
引当金	315	—
その他	2,583	2,365
流動負債合計	9,251	10,834
固定負債		
長期借入金	—	132
退職給付引当金	1,413	1,393
役員退職慰労引当金	238	234
その他	1,272	1,346
固定負債合計	2,923	3,106
負債合計	12,174	13,940
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,479	8,480
利益剰余金	27,595	28,042
自己株式	△548	△547
株主資本合計	40,527	40,975
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△33	△246
為替換算調整勘定	△92	△261
評価・換算差額等合計	△125	△508
少数株主持分	35	39
純資産合計	40,437	40,506
負債純資産合計	52,612	54,446

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	9,121	5,333
売上原価	6,247	3,802
売上総利益	2,874	1,531
販売費及び一般管理費	2,637	2,213
営業利益又は営業損失(△)	237	△682
営業外収益		
受取利息	55	44
受取配当金	61	15
持分法による投資利益	8	—
複合金融商品運用益	106	104
為替差益	—	62
その他	66	13
営業外収益合計	297	238
営業外費用		
支払利息	4	8
持分法による投資損失	—	10
その他	6	9
営業外費用合計	10	26
経常利益又は経常損失(△)	523	△470
特別利益		
貸倒引当金戻入額	12	1
その他	1	—
特別利益合計	12	1
特別損失		
固定資産除売却損	8	8
その他	0	0
特別損失合計	9	8
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	527	△476
法人税等	200	△123
少数株主利益又は少数株主損失(△)	1	△4
四半期純利益又は四半期純損失(△)	326	△349

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	管材システム 事業(百万円)	樹脂事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,831	3,290	9,121	—	9,121
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,831	3,290	9,121	—	9,121
営業利益	182	55	237	—	237

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	管材システム 事業(百万円)	樹脂事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,627	1,706	5,333	—	5,333
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,627	1,706	5,333	—	5,333
営業損失(△)	△ 547	△ 135	△ 682	—	△ 682

(注) 1 事業区分の方法

製品の種類、性質、製造方法、販売方法等類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、事業区分を行なっております。

2 各事業の主要製品

事業区分	主要製品
管材システム事業	プラスチック製バルブ、パイプ、継手、フランジ、ガスケット、汚泥改質機構、電気透析脱塩装置、配管工事等のエンジニアリング、半導体関連機器の治工具洗浄装置等
樹脂事業	フェノール樹脂（鋳物用、発泡用、建材用、電子材料用、一般工業用等）、レジンコーテッドサンド、フェノール樹脂成形材料、ジアリルフタレート樹脂成形材料等

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	8,162	891	68	9,121	—	9,121
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	382	—	—	382	(382)	—
計	8,544	891	68	9,503	(382)	9,121
営業利益又は営業損失(△)	215	27	△ 4	239	(2)	237

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	中国 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,611	675	47	5,333	—	5,333
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	173	—	14	187	(187)	—
計	4,784	675	61	5,519	(187)	5,333
営業利益又は営業損失(△)	△ 648	11	△ 44	△ 680	(3)	△ 682

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	783	458	1,241
II 連結売上高(百万円)	—	—	9,121
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	8.6	5.0	13.6

当第1四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)

	北米	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	758	174	932
II 連結売上高(百万円)	—	—	5,333
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	14.2	3.3	17.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本国以外の区分に属する主な国又は地域

(1) 北米・・・米国、カナダ

(2) その他の地域・・・上記以外の欧州、中南米、アジア等の地域

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(5) 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。